

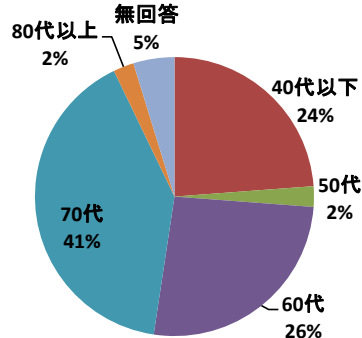
平成29年度 認知症徘徊模擬訓練 認知症声かけ訓練in荃崎 アンケート集計

(回答数 42名)

訓練終了後に開催した、「声かけ訓練報告会」に参加した方に対して実施しアンケート調査をまとめたものです。

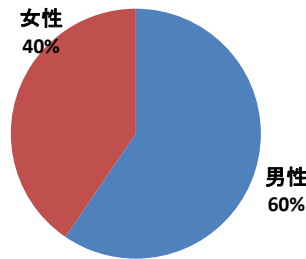
1 年齢

40代以下	10
50代	1
60代	11
70代	17
80代以上	1
無回答	2



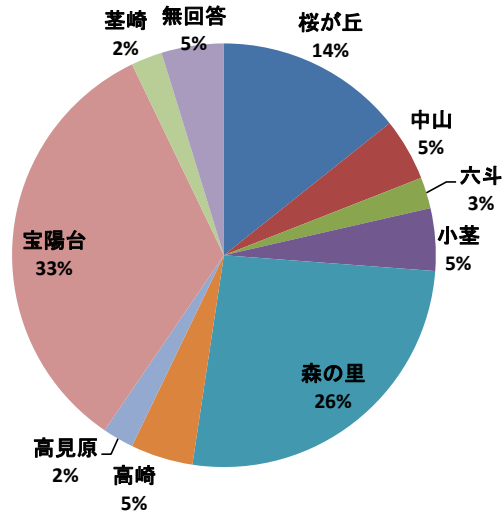
2 性別

男性	25
女性	17



3 お住まいの区会

桜が丘	6
中山	2
六斗	1
小荃	2
森の里	11
高崎	2
高見原	1
宝陽台	14
荃崎	1
無回答	2

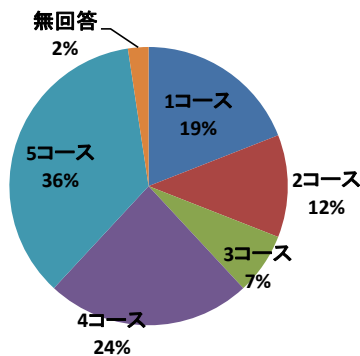


4 本日の地域での声かけ訓練に参加しましたか

はい	37
いいえ	4
無回答	1

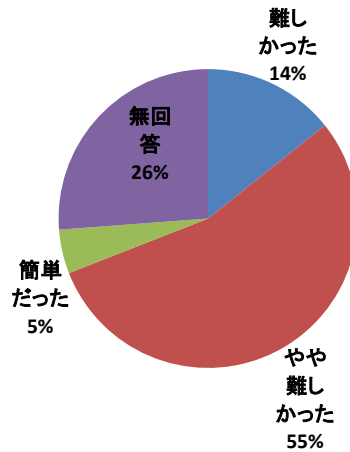
5 何コースでしたか

1コース	8
2コース	5
3コース	3
4コース	10
5コース	15
無回答	1



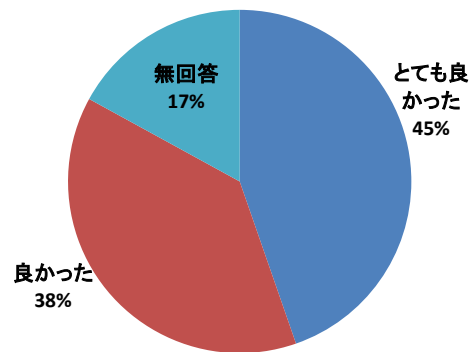
6 仮想の徘徊者への声かけは難しかったですか

難しかった	6
やや難しかった	23
簡単だった	2
無回答	11



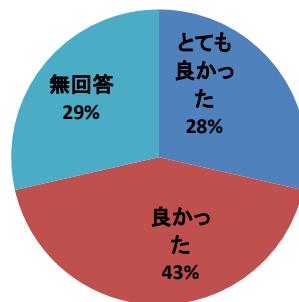
7 仮想の徘徊者の対応はいかがでしたか

とても良かった	21
良かった	18
あまり良くなかった	0
良くなかった	0
無回答	8



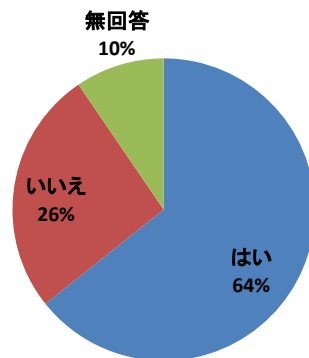
8 観察者の対応はいかがでしたか

とても良かった	12
良かった	18
あまり良くなかった	0
良くなかった	0
無回答	12



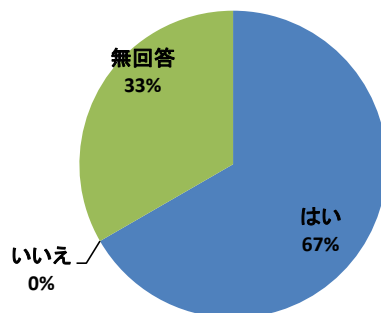
9 お住まいの区会の認知症サポーター養成講座に参加しましたか

はい	27
いいえ	11
無回答	4



10 声かけ訓練に認知症サポーター養成講座は役に立ちましたか

はい	28
いいえ	0
無回答	14



①役にたったのはどのようなことですか

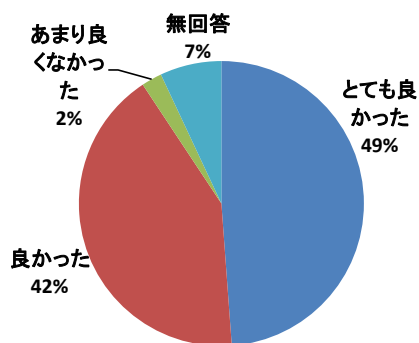
- ・対応の仕方が良くわかった。問題点も浮き出た。
- ・声かけ、対応の仕方。(9名)
- ・してはいけないこと、すべきこと。
- ・3つの「ない」
- ・声かけの大切さ。(2名)
- ・目線を低く、合わせる。ハッキリとした声で、後ろから声をかけない。
- ・相手のプライドを傷つけない。姿勢を低くする。
- ・認知症とはどんな病気なのか。(2名)
- ・相手の目線に立って声かけ。まずは自分の名前を言う。おばちゃんは禁句。
- ・心構えができた。
- ・声かけの態度、要領を事前に学んでおくことが出来たので、ある程度対応が出来た。
- ・一応、心の準備ができていたこと。しかし、実際の対応は思う通りにいかなかった。
- ・DVDの良い例、悪い例が参考になった。
- ・講座で学習したことを訓練で活かすことが難しい部分があった。
- ・前から同じ目線で、徘徊者の言動を肯定的に捉える。

②今後お住まいの地域でどのような対応をしようと思いますか

- ・地域に密着していく。
- ・自治会などの研修会。
- ・必要があれば講演などをお願いする。(2名)
- ・自治会と協力して、地域として取り組む。
- ・多くの方とコミュニケーションを取って、まず顔見知りになるようにする。
- ・声をかける。(5名)
- ・認知症らしい人を見かけたら、積極的に声をかけ、警察に連絡したい。
- ・挨拶をしようと思う。(2名)
- ・認知症の方もそうでない方も、共に人間として普通に話ができる地域になったらと思っています。
一つの病気として改めて対応していきたい。
- ・区会の中で誰かに連絡することより、市や消防などに連絡する方法の確立。
- ・まずはしばらくついて歩いて様子を見る。それから声かけをするか、警察へ連絡するか判断する。
- ・常に協力しようと思うこと。

11 報告会はいかがでしたか

とても良かった	21
良かった	18
あまり良くなかった	1
良くなかった	0
無回答	3



12 内容でどこが良かったですか

- ・様々な問題点が出ていて対応を考えられる。
- ・高橋先生の話が分かりやすかった。(3名)
- ・各コースや他の方からの声が聞けた(6名)
- ・認知症と思われる人の声かけの仕方、引き留め方、警察への連絡方法。(2名)
- ・名前を名乗った方がいい。認知症であるかどうかの見極めが難しい。
- ・自分が出来ていなかった自己紹介や日付などを話す必要性を理解できた。(3名)
- ・認知症かどうかの見極めは会話の中からできること。
- ・対応方法で悪かった点あまり出てこない。反省点をまとめて対応策を考えたら良いと思う。
- ・徘徊者を何と呼んだらいいか？声をかけた後の終わりはどうしたらいいか？(2名)
- ・徘徊者役の感想を細かく聞けた。

13 その他、感想等

- ・訓練について。市の配布物や自治会の回覧によるお知らせを何度かしたにも拘らず、住民の参加が少なかったことが残念です。元気な方が多いので、問題意識が薄いのかなと思います。
- ・講評で具体的な事例や介護をしている事例が聞けたことがよかったです。
- ・観察者が訓練中のプラカードを持つのはどうでしょうか。講座を受けていない方も何事か分かりやすくなるかもしれません。
- ・認知症のことへの理解が進んだ。
- ・認知症において、地域で暮らせる社会に向けて一歩進んだことが嬉しい。今後も開催して啓発してほしい
- ・事前に研修会に出席した予備知識があった。もし何も知らず訓練したら、戸惑ってしまう。徘徊者役の演技がとてもしリアルでびっくり致しました。
- ・教えていただいても実際の声かけは難しい。訓練で練習させて頂いて助けになりました。
- ・支援のためにはコミュニケーション力が必要だと感じた。
- ・今回は徘徊者と分かっている訓練でしたが、普段、そういう人が分からなくての声かけは、どんな場面で可能なかを判断するのは難しいと思った。
- ・感想は良いことばかりで、こうしたら等の新たな提案が少なかった。特に観察者役は、良い点、悪い点を整理して、今後の参考になる意見が欲しかった。
- ・認知症の方の症状の進み具合が初対面では分からない。
- ・高橋先生の事例報告は説得力があったと思う。

《追加資料》

- ①声かけ訓練参加者数 176名
- 1コース 48名(男性 15名 女性 33名 内子ども 2名)
 - 2コース 33名(男性 16名 女性 17名 内子ども 3名)
 - 3コース 29名(男性 13名 女性 16名 内子ども 10名)
 - 4コース 28名(男性 15名 女性 13名 内子ども 2名)
 - 5コース 38名(男性 20名 女性 18名 内子ども 0名)

- ②関係者等 67名
- 荃崎地区関係者、住民 39名
 - キャラバン・メイト 10名
 - 社会福祉協議会 3名
 - 地域包括支援課 13名
 - 講師:高橋克佳先生, ACCS 1名